

平成29年度 第1回教育研究評議会議事要録

日時 平成29年4月13日(木) 14:00～15:30
場所 事務局第1会議室
出席者 三村学長, 尾崎理事, 太田理事, 袖山理事, 影山理事, 米倉副学長, 佐川人文社会科学部長, 生越教育学部長, 折山理学部長, 馬場工学部長, 久留主農学部長, 木村全学教育機構長, 高橋図書館長, 田中評議員, 蓮井評議員, 荒川評議員, 小野寺評議員, 田内評議員, 吉田評議員, 増澤評議員, 伊藤評議員, 中石評議員, 後藤評議員

議 題

審議事項

- 1 研究推進関連企画(案)について
- 2 茨城大学入学者選考に関する規程の一部改正について
- 3 工学部及び理工学研究科の改組計画について
- 4 その他
・平成29年度の重点課題・計画について

報告事項

- 1 教員の人事について
- 2 平成29年度科研費採択状況について
- 3 平成30年度概算要求の検討について
- 4 平成29年度入学試験の実施及び受入状況について
- 5 いばらき量子ビーム研究センターを活用した教育研究拠点形成に向けた協力実施に関する協定書の締結について
- 6 平成28年度定期監査結果について
- 7 日本学生支援機構奨学金大学院返還免除候補者選考要項の見直しについて
- 8 国立大学法人茨城大学組織規則の一部改正について
- 9 その他

議 事 概 要

I 審議事項

- 1 研究推進関連企画(案)について
学長から, 審議願いたい旨の提案があり, 尾崎理事から資料1に基づき説明があり, 審議の結果, 提案のとおり了承された。
【主な意見】
 - 学術講演会支援について, 支援する金額が少ないのではないか。
 - 支援した成果などについて, 検証や分析をする必要があるのではないか。
 - 若手教員の支援について, 若手教員を支援する財団などは多くあり, それらを獲得する方策が良いのではないか。その上で中堅以上の教員を支援する制度を検討していただきたい。
- 2 茨城大学入学者選考に関する規程の一部改正について
学長から, 審議願いたい旨の提案があり, 泉岡副学長から資料2に基づき説明があり, 審議の結果, 提案のとおり了承された。

3 工学部及び理工学研究科の改組計画について

学長から、審議願いたい旨の提案があり、馬場工学部長から資料3に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

4 その他

・平成29年度の重点課題・計画について

学長から、審議事項としているが、平成29年度の重点課題・計画について、説明の上、審議したい旨の提案があり、資料その他1に基づき説明があった。

【主な意見】

- 大学ランキングなどの結果のみで一喜一憂することはないが、ひとつの指標として捉えるべきである。
- 教育の満足度などの教育成果は良い結果であり、各学部の教員は努力している。今後は、教育リソースを上げるために、資金などを投入する必要があるのではないか。

II 報告事項

1 平成29年度科研費採択状況について

尾崎理事から、資料5に基づき報告があった。

2 平成30年度概算要求の検討について

袖山理事から、資料6に基づき報告があった。

3 いばらき量子ビーム研究センターを活用した教育研究拠点形成に向けた協力実施に関する協定書の締結について

学術企画部長から、資料8に基づき報告があった。

4 日本学生支援機構奨学金大学院返還免除候補者選考要項の見直しについて

太田理事から、資料10に基づき報告があった。

III 監事からの意見

・アドミッションセンターへの期待を述べたい。今年度は入学志願者の増加及び平成32年度に向けた入試改革方針の策定という重大な課題がある。平成30年度においては、入試が大きく変わるため、特に今年度の入試広報について、対策を立てて行う必要がある。教育学部における面接や工学部における英語試験の導入については、各学部に相応しい資質、また、より高い学力を持った学生を入学させたいという本学の意思表示であり、入学のハードルを上げたことになる。これは受験生の負担が大きくなることを意味しており、負担が大きくなれば、受験生は合格の可能性を他大学に求めることも考えられるので、本学のアドミッション・ポリシーへの高校側の理解を深めていただくことが重要である。その上で、高校生に十分に準備をさせる指導をお願いしていくことも必要ではないか。また、入学のハードルを上げた分、これまでよりも、学力の高い高校生の関心を引きつける努力をすることが、今年度は特に求められるので、大学改革による全学教育機構の基盤教育や、各学部の改組による専門教育において、学生はこれからどのような将来像を新たに描けるようになったのかを伝えていただきたい。二つ目は、いばらき量子ビーム研究センターの活用に向けた、茨城県と東海村との協定についてでだが、事業を進める上で、茨城県、各自治体及び企業などとの連携による支援が必

須である。将来に向けてWin-Winの関係を築くことにより、量子線科学分野の研究がさらに推進されることを期待する。

IV その他

教育研究評議会会議資料の公開について

学長から、資料の公開について、以下のとおり確認があった。

非公開：資料3 それ以外は全て公開する。

次回 教育研究評議会開催

5月11日（木） 14時00分から